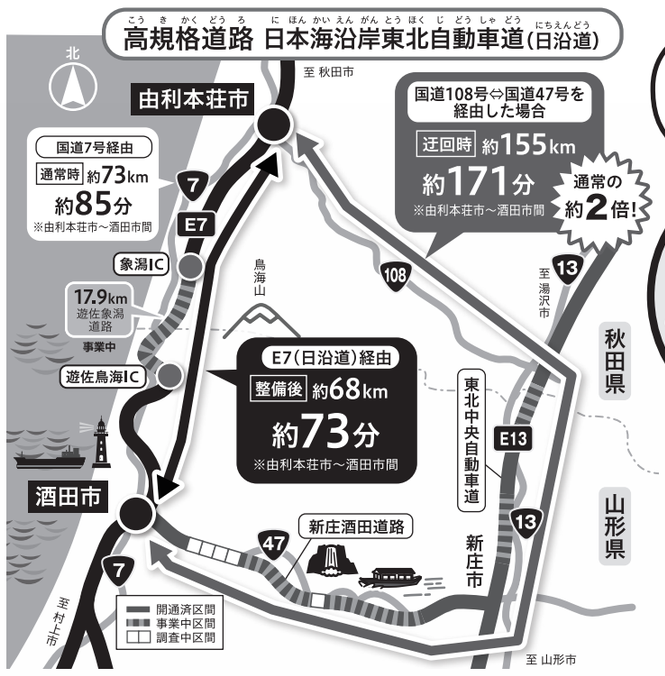
道路

災害時も街を繋ぎ 暮らしを守る 「強い道路」



高規格道路 日本海沿岸東北自動車道(日沿道)





キーワード

【広域迂回】
通行止めにより目的地まで遠回りしなければならないこと。

【津波浸水想定区域】
陸上に津波が遡上し、浸水が想定される区域のこと。

【緊急輸送道路】
災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な道路。

道路は暮らしを守るライフライン

一昨年の元日に発生した能登半島地震では、山形県沿岸部に津波警報が発表されたため、国道7号の一部が**津波浸水想定区域**で通行止めを実施しました。山形と秋田の県境で国道7号が通行止めとなった場合、内陸部を経由する**広域迂回**となり通常の約2倍の時間がかかります。現在事業中の日本海沿岸東北自動車道は、災害時の代替路や**緊急輸送道路**として機能し、物資の安定供給、地域の医療活動などを支援します。また、災害時の**道路**としても常時は輸送時間短縮に伴う輸送コストの低減に寄与し、地域産業の活性化に繋がります。

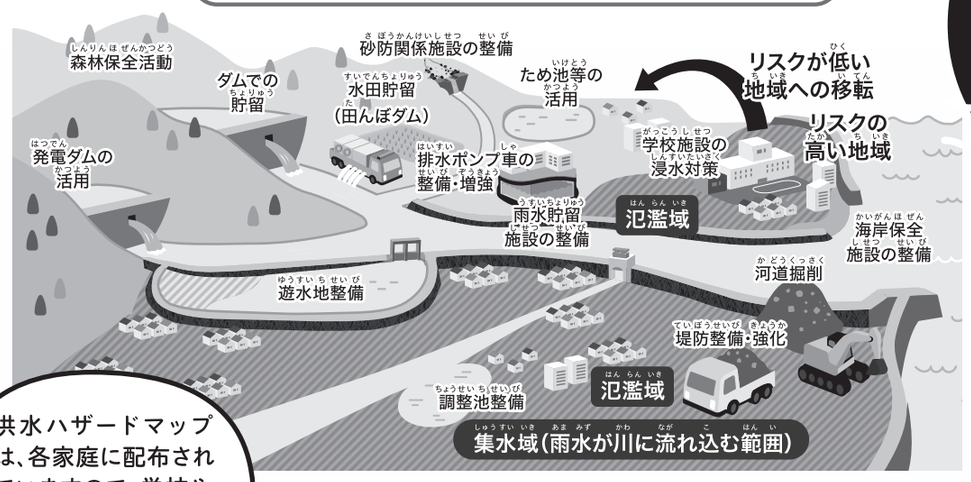
ライブカメラが見られる
道路情報サイト

道路の異状を発見したら〈24時間受付〉
道路緊急ダイヤル #9910 または LINEアプリ で通報

河川

みんなでとりくむ 水災害対策

あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」のイメージ



気候変動による水害リスク増大にみんなで取り組む「流域治水」

近年、気候変動の影響により、水災害リスクが増加しています。これからは、流域に関わるみんなで対策を進める必要があります。それが、〝**流域治水**〟です。

例えば、日ごろから**洪水ハザードマップ**を確認したり、災害発生時の防災行動を整理したマイ・タイムラインを作成するなど、一人一人の行動が流域治水推進につながります。



キーワード

【洪水ハザードマップ】
洪水などによる被害を予測し、その被害のはん囲を地図に表したもの。また、地域の住民がすばやく安全に避難することができるように、避難の道順や避難場所などを示している。

水害から身を守るために
河川の水位状況確認



水害から命を守るために取るべき行動を〝短時間で〟子どもたちに学習してもらう防災教育を山形河川国道事務所で実施中。

この紙面をダウンロードできます

特集!! ぼうさいしゅうかん 2026

防災週間 いのちとくらしをまもる防災減災
期間 8月30日～9月5日



おもな山形県でおきた災害

気象災害
- ■1961年 9月16日 第2室戸台風
- ■1967年 8月28-29日 羽越豪雨
- ■1967年 12月-1968年 2月 大雪
- ■1969年 8月7-8日 大雨
- ■1976年 10月29-30日 酒田大火
- ■1978年 6月25-27日 大雨
- ■1980年 12月-1981年 2月 昭和56年豪雪
- ■1981年 8月22-23日 台風第15号
- ■1983年 12月-1984年 4月 昭和59年豪雪
- ■1987年 8月28-29日 大雨
- ■1988年 6月18日 降雹(ひょう被害)
- ■2004年 8月19-20日 台風第15号
- ■2005年 12月25日 突風
- ■2008年 8月14-15日 大雨
- ■2019年 10月11-13日 令和元年東日本台風
- ■2020年 7月26-29日 令和2年7月豪雨
- ■2022年 8月3-5日 令和4年8月大雨
- ■2024年 7月24-27日 令和6年7月大雨

土砂災害
- ■1974年2月～5月 鳥海山噴火
- ■2009年2月 地滑り(鶴岡市七五三掛)
- ■2012年4月 地滑り(大蔵村肘折)
- ■2022年12月31日 土砂崩れ(鶴岡市西目)

地震災害
- ■850年と記録 出羽 /マグニチュード7.0
- ■1804年7月10日 象潟地震/マグニチュード7.0
- ■1833年 12月7日 羽前・羽後・越後・佐渡 /マグニチュード7.5
- ■1894年10月22日 庄内地震 /マグニチュード7.0
- ■1964年 6月16日 新潟地震 /マグニチュード7.5
- ■1983年 5月26日 昭和58年日本海中部地震 /マグニチュード7.7
- ■2011年3月11日 平成23年東北地方太平洋沖地震 /マグニチュード9.0
- ■2019年6月18日 山形県沖/マグニチュード6.7
- ■2024年 1月1日 令和6年能登半島地震 /マグニチュード7.6

出展：山形地方気象台ホームページ www.data.jma.go.jp/yamagata/index.html
※最新の情報をもとに、一部表現変更、追記。

地域の人の声を聞き形にしたい
人材募集中
国家公務員採用
国土交通省採用情報はこちらから▶

キーワード

【砂防＝世界の「SABO」】
日本は長年に渡り培った砂防技術を、世界各国に提供している。その大きな功績と、外国語には砂防を表わす適当な言葉がないことから、海外でも砂防は「SABO」と呼ばれている。

令和6年7月の大雨

■鍋嶽沢砂防堰堤
(なべたけさわさぼうえんてい)

令和６年７月の大雨により土砂災害が発生したが、砂防堰堤が土砂及び流木を捕捉したことで下流地区の主要な道路などへの被害を未然に防ぐことができた。





砂防施設の整備効果

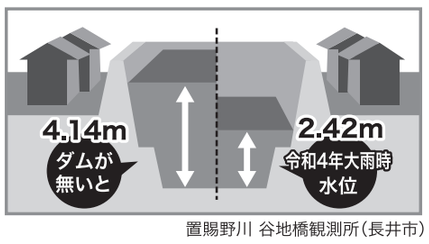
土砂災害とは、山や崖が崩れたり、崩れた土砂が雨水や川の水と混ざって流れだしたりすることで、人命が奪われたり、建物が押しつぶされたりする災害のことです。大雨や地震、火山の噴火などをきっかけに発生します。「砂防」とは、このような土砂災害から人々の生命や財産を守るとともに、観光や日常生活を支え、誰もが安心して暮らせる環境を守ります。

砂防

土砂災害から命と財産を守る

国土交通省

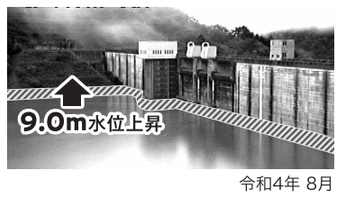
ダムの操作でこんなに下流の水位が違う



置賜野川 谷地橋観測所(長井市)

水を貯めこんだダムの様子

最上川水系 長井ダム



令和4年 8月

国土交通省管理ダム

●白川ダム ●寒河江ダム ●長井ダム
●月山ダム ●横川ダム

ダムの役割
- 洪水調節
- 工業用水の確保
- 農業・水道用水の確保
- 河川環境の保全
- 発電

ダムの役割の一つに、大雨が降った際に一時的に雨水を貯めこんで、安全に水を下流に流す役割があります。

令和4年8月の大雨では、管理開始(平成23年)以降、第1位の流入量を記録しました。その際、長井ダムが約784万立方メートル(東京ドームで約6.3杯分)の水を貯め込んだことで、ダム下流の置賜野川の長井市谷地橋地点で約1.7メートルの水位を低減させる効果があったと推測されます。

ダム

地域を守り暮らしを支えるダム